

しあわせ信州創造プラン2.0

～ チャレンジプロジェクトの展開に向けた主な取組～

チャレンジプロジェクトの展開に向けた主な取組

チャレンジプロジェクトとは、概ね2030年の長野県のあるべき姿から振り返って、今何をすべきかを考え組み立てた政策の方向性(構想)を示したものです。今後、具体的な取組を検討していきますが、その端緒となる主な取組は以下のとおりです。

1 人生を豊かにする創造的な「学び」の基盤づくりプロジェクト

《地域と学校が一体となった子どもたちの学び支援》

- たくましく生き抜く力を育む幼保小中高を通じた自然・野外教育のあり方を検討【教育委員会】58万3千円

《リアルとバーチャルのベストミックス》

- 学びたい人がいつでもどこでも学べるオンライン上の学びの場「信州・Webカレッジ(仮称)」の構築を検討【教育委員会】38万5千円

《アート&スポーツによる学び》

- 文化芸術団体等と連携し「しばふコンサート」や「子どものための音楽会」など本物に触れる機会を充実【県民文化部】

2 共創を促進するイノベティブな産業圏づくりプロジェクト

《大学等を核とした共創クラスターの形成》

- 大学のシーズと企業のニーズを結び付け、医療機器など成長期待分野での産学共同の研究開発を支援【産業労働部、県民文化部】2,495万5千円

《次代の産業構造構築に向けた支援体制の強化》

- 時代の変化に対応できる企業支援体制のあり方を検討【産業労働部】
- 「A I ・ I o T利活用戦略」を策定し、産業支援機関と連携して中小企業への普及を促進【産業労働部】187万3千円

3 未来に続く魅力あるまちづくりプロジェクト

- まちづくり・まちづかいのトータルデザインを支援する信州地域デザインセンター(仮称)の設置準備【建設部】73万6千円

《潤いと楽しみのあるまち》

- バス利用者にリアルタイムで位置情報を提供する広域バスロケーションシステムを構築【企画振興部】1,597万2千円

《持続可能なまち》

- 屋根での太陽光発電の可能性を見える化するソーラーマッピングを構築し、様々な業界と連携して屋根ソーラー発電を拡大【環境部】2,992万8千円

4 美しく豊かな木と森の文化の再生・創造プロジェクト

《木や森と人とのつながりの再生・創造》

- 健康や教育など多面的に里山を利活用する地域の取組を支援【林務部、県民文化部、健康福祉部等】3,375万円
- 県産材のトレサビリティを確保する仕組みを構築し、物語性を高めて消費者に発信【林務部】

《木や森を活かす人づくり》

- 次代の森林管理を担う人材を養成するフォレストバレーの中核である林業大学の抜本的な改革を推進【林務部】102万8千円

5 安心できる持続可能な医療・介護の構築プロジェクト

《長寿社会を支える医療・介護の追求》

- 地域の拠点病院が深刻な医師不足を抱える小規模病院の診療を支援する新たな仕組みを構築【健康福祉部】5,280万1千円

《健康長寿世界一の実現》

- 国民健康保険データシステム等を活用して県民の健康課題を見える化し、市町村の効果的な健康づくりを支援【健康福祉部】489万1千円

6 人生のマルチステージ時代における多様な生き方の支援プロジェクト

《クリエイティブフロンティアの創造》

- ワークショップ等を通じ、住民主体の学びと地域づくり活動を支える中間支援人材を育成【企画振興部】397万8千円
- 異年齢集団による探求的な学びやICTにより世界とつながる学びなど中山間地域の新たな学びを研究【教育委員会】300万3千円

喫緊の課題への対応

喫緊の課題である「健康づくり」、「人材確保」について、具体的な対応策を取りまとめました。

- 1 “学びと自治の力”による健康づくりの新展開
- 2 人手不足の今を生き抜く信州の産業人材確保

1 “学びと自治の力”による健康づくりの新展開

喫緊の課題

- ◆都道府県別平均寿命（H27）で男性が2位に後退。生活習慣病のリスク、脳血管疾患・心疾患による死亡率等、多くの項目で課題が顕在化
- ◆働き盛り世代の運動習慣の少なさ、糖尿病予備群の多さと糖尿病重症化の恐れ、高齢化の進展に伴うフレイル（虚弱）による要介護者の増加、若者世代を中心とする野菜摂取量の減少等の問題を克服しないと、将来、健康長寿県の地位が危うくなり医療費・社会保障費も増大の恐れ
- ◆健康課題の見える化を進め気づきを支援するとともに、健康づくりの取組を推進する体制を強化することにより、信州ACE（エース）プロジェクトをより一層強力に推進することが必要

(1) 見える化を通じた学び（気づき）による健康づくり

- 国民健康保険の保険者として、国保データベース等を活用し、生活習慣（喫煙、運動習慣等）、健診（メタボ、血圧特定保健指導実施率等）、医療機関の受診状況などのデータを専門家を交えて分析し市町村毎の健康課題の見える化を進めます。
- 見える化した健康課題は、県シニア大学や、ボランティア活動リーダー養成研修等、様々な“学び”の場とコラボして共有し、県民の“気づき”を促します。
- 市町村が住民に対し健康課題をわかりやすく説明できるよう支援するほか、見える化した地域の健康課題に対応した住民への働き掛けや保健事業等に取り組む市町村に対して県が支援チームを組んで支援します。
- 健康保険組合、企業等へは、データ分析による企業毎の健康課題の見える化により“気づき”を支援し、職員の健康づくりを進める健康経営の取組を促進します。

■健康課題まるごと「見える化」「気づき」プロジェクト
 （データ分析、市町村支援、健保組合・団体・企業等への働き掛け等）
 【健康福祉部・産業労働部】(489万1千円)

(2) 多様な主体の“自治力”をつなげ・共創する体制づくり

- 多くの県民や市町村、企業、団体等が健康課題と危機意識、健康づくりの効用を共有し、ベクトルを合わせて取り組みます。
 - ・関係団体、健康産業など意欲ある関係者と連携推進体制（プラットフォーム）を構築し、具体的な対策（フラッグシップ・プロジェクト）を推進します。
 - ・国保制度改革を踏まえて、県と市町村の一体的な取組体制（「長野県自治力による健康づくり推進会議」（仮称））を構築します。
- “学び”と“自治”により、長野県の健康づくりの取組を、2ndステージに深化させるため、県の組織を再編し推進体制を強化します。

■信州の「健康自治力」共創体制の整備
 （連携推進プラットフォーム・長野県自治力による健康づくり推進会議（仮称）の設置・運営）
 （人生二毛作社会の推進（コーディネーター増員）：4,819万7千円（健康福祉部））
 （組織：健康増進課＋国民健康保険室による推進体制の一本化）
 （職員：厚生労働省の担当課へ県職員を派遣）
 （ヘルスケア産業振興施策との連携）
 【県・市町村・関係団体等】(78万5千円)

見える化によるアプローチ

共創によるプロジェクト展開

(3) 学びの実践（ターゲット毎の課題解決）による健康づくり

- ターゲットを明確化した上で、“学び”の実践につながり、多様な主体の“共創”を促す、フラッグシップ・プロジェクトを展開し、全県に拡げていきます。

■ターゲット毎に共創する『ACE・フラッグシップ・プロジェクト』
 （若者・働き盛り世代の健康づくり、ボランティア活動強化、ACE普及発信、フレイル予防）
 【健康福祉部】(1,463万5千円)

◇働き盛り世代＝運動習慣の定着
 :協会けんぽと協働で、“事業所対抗「学んで」「歩く」90日！”（スマホのアプリを活用した参加型ウォーキング）を全県展開

◇若者＝野菜を中心としたバランスの取れた食生活の促進
 :野菜を食べることの重要性を学び、気づき、実践を促すため、食品メーカー、食生活改善推進協議会、栄養士会等との共催で「野菜を食べよう！」キャンペーンを開催
 :県内大学生、食生活改善推進協議会、栄養士会が長野の健康課題を学び、気づき、交流する場を創出
 :大学生自らが、SNS（インスタグラム、twitter）で健康情報や取組を発信し、次世代を担う新たなスタイルの健康ボランティアとして学びを実践

◇高齢者＝フレイル（虚弱）予防
 :県内各地域や医療介護機関でのフレイル予防活動の普及に向けて「長野県版人材育成プログラム」を開発し、医療介護専門職や市町村職員の「学び」と「実践」を促進
 :大学や研究機関と合同で新たに虚弱予防（健康脆弱化予知予防）の共同研究に着手
 :薬局など身近な場所でフレイル予防（運動、食、社会参加）に取り組める環境づくり

◇企業＝健康経営
 :ACEを軸にした健康経営の優良事例の情報発信、SNSの活用等

- 健康づくりに関係する事業を展開し、生きがいや豊かな暮らしを実現します。

■施策を“健康”にフォーカスした全庁総掛かりの健康創造プロジェクト
 （事業例）

『歩く』	: 歩こう！走ろう！観光地の歩道グレードアッププラン	【建設部】(5年間約36億円)
『食べる』	: 学校・家庭・地域全体で取り組む食育推進事業	【教育委員会】(92万8千円)
	: (拡)「おいしい信州ふード」の魅力発信事業	【農政部】(2,038万7千円)
『住まい』	: (拡)環境配慮型住宅普及促進事業	【建設部】(1億8,876万円)
『観光』	: (新)森林セラピー推進支援事業	【林務部】(1,752万1千円)
	: ヘルスツーリズム推進事業	【観光部】(200万円)

2 人手不足の今を生き抜く信州の産業人材確保

喫緊の課題

- ◆ 有効求人倍率が高い水準で推移(1.74倍(H29.12))し、特に福祉・介護、観光業、建設業などの分野で人手不足が顕著
- ◆ 人手不足分野の人材確保に加え、多様な人材の労働参加、プロフェッショナル人材等のUターン、地元就職の一層の促進が急務

人手不足の解消と人材確保

◎「長野県就業促進・働き方改革戦略会議(仮称)」の設置

・経済団体、労働団体、学識経験者、労働局等と共に戦略会議を設置し、人手不足状況等の把握や産業分野・広域ごとの現状・課題把握、効果的な就業促進策を検討・立案・実施する体制を構築
【産業労働部】(新)(57万4千円)

◎人手不足分野の人材確保

【福祉・介護等】
 ・福祉・介護職場のPRやマッチング支援、修学資金の貸付、福祉大学校での人材育成等により、福祉・介護を担う人材の就業を促進【健康福祉部】(拡)(3億7,880万7千円)
 ・介護現場の職場環境改善や人材育成等に取り組む事業者の認証・評価と求職者への情報発信により、就業を促進【健康福祉部】(749万9千円)
 ・日本福祉大学との「Uターン就職促進協定」を活用し、福祉・介護人材の県内就職を促進【産業労働部・健康福祉部】(新)(ゼロ予算)
 ・幼稚園教諭の処遇改善を図るため、私立幼稚園に対する補助を拡充【県民文化部】(拡)(18億8,923万1千円)

【観光業】・観光インターンシップや寄附講座を実施し、観光・サービス産業を担う人材の就業を促進【観光部】(新)(539万6千円)

【建設業】・県の工事で週休二日を導入する場合、必要な工期の設定、経費の負担及びその達成度に応じた工事成績の加点を実施することにより、建設業の人材確保を促進【建設部・環境部・農政部・林務部・企業局】(新)(ゼロ予算)

◎多様な人材の労働参加の促進

【女性】・女性従業員へのスキルアップセミナー、企業への女性の就業継続の働きかけや正規雇用でのマッチング支援を実施【産業労働部】(3,588万9千円)

【高齢者】・高齢者の就労を支援するための法改正を受けて、シルバー人材センター派遣での高齢者の就業可能な業務の選択肢を拡大【産業労働部】(新)(ゼロ予算)

【障がい者】・求職者と企業との出会いの場の創出や事業所への啓発により障がい者の就労を支援【産業労働部】(343万3千円)

【外国人留学生】・県内外留学生と県内企業が参加するグローバルキャリアフェア(マッチング)の開催や、信州大学と金沢大学による「『かがやき・つなぐ』北陸・信州留学生就職促進プログラム」の協同実施により、外国人留学生の県内就職を促進【産業労働部】(新)(123万4千円) 33
【国予算】(2,500万円)

◎プロフェッショナル人材や信州を愛する人のUターン促進

【プロフェッショナル人材】
 ・長野県プロフェッショナル人材戦略拠点において、大都市圏等の大手企業等と連携し、県内企業の求人ニーズと専門人材とのマッチングを促進【産業労働部】(5,662万5千円)
 ・県内企業への助成により、大都市圏等からのプロフェッショナル人材の雇用を促進【産業労働部】(2,437万7千円)

【学生・移住希望者】
 ・新たにインターンシップフェアを開催して大学生に県内就職を意識づけるとともに、県外の大学生等による県内企業でのインターンシップに対する助成、企業情報の提供、Uターン就職協定校との連携強化などにより、県内就職を促進【産業労働部】(2,341万2千円)
 ・移住希望者に対するU・Iターン促進セミナーや個別の相談会を通じたマッチングにより、信州創生に必要な人材を確保【企画振興部】(239万6千円)

◎AI・IoT等を活用できる人材の確保

・工業技術総合センター内にIoT分野における事業開発経験の豊富な人材を招へいし、県内企業のIoT分野の事業化等を支援【産業労働部】(新)(2,019万5千円)
 ・AI・IoT等を活用できる人材確保のため、民間教育機関等に育成を委託【産業労働部】(一部新)(4億3,211万2千円の一部)
 ・AI・IoTなどIT関連のクリエイティブ人材を首都圏等から誘致【産業労働部】(1,040万8千円)

◎県・市町村教育委員会等と連携し、地元での就職の促進

・地域の拠点高校での企業実習(デュアルシステム)等を通じて、地域産業が魅力的な活躍の場であることを学生に意識づけ、地域産業を支える人材の確保・定着を促進【教育委員会】(3,885万6千円)
 ・地域・企業から各分野の専門家を講師として高校へ派遣し、リサーチ・トレーニングや、高度な知識・技能の習得を図るための企業実習等を実施【教育委員会】(新)(363万3千円)
 ・グローバル人材の県内就職を図るため、県内の大学・短大生、高校生が県内企業の海外事業所で行うインターンシップ等の経費を支援【県民文化部】(280万円)
【教育委員会】(新)(132万円)

白ページ

森林税を活用した信州の森林づくり

<ねらい> 森林づくり県民税を活用し、「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山整備をはじめ、森林の多面的な利活用を推進します

◆「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山整備

<これまでの取組>

- 森林の多面的な機能を維持・増進させるため、これまでの財源では十分に対応できなかった里山における間伐等を集中的に推進(10年間の間伐実施見込み:32,210ha)
〔規模の小さな森林整備が補助対象となりにくくなったことに加え、所有者の不在村化や境界の不明瞭化など、山離れが一層深刻化し、間伐実施が困難な森林が未整備のまま存在〕

今後の方向性

- 防災・減災のために必要不可欠な里山の間伐及び河畔林の整備を推進します。
- 「里山整備利用地域」において、地域住民等の主体的な参画による自立的・持続的な森林管理の構築を図ります。

<平成30年度の取組>

- ◆「防災・減災」の観点から、整備の必要性が高い里山の森林の整備及び河畔林の整備を推進
〔里山整備面積1,290ha〕【林務部・建設部】(新)防災・減災のための里山の整備事業 5億2,709万7千円
- ◆「里山整備利用地域」において、地域住民等の主体的な参画により、薪利用や森林を活用した教育活動など里山の整備や利活用を推進
〔認定地域50地域〕【林務部】(新)県民協働による里山の整備・利用事業 9,690万7千円
- ◆間伐事業実施地の森林所有者の合意形成や所有者の境界を明確化する取組を支援
〔集約化等面積900ha〕【林務部】地域で進める里山集約化事業 1,440万円

◆自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用

<これまでの取組>

- 県産材の利活用は、県民の皆様にも効果を伝えやすく、かつ、地域ぐるみの利活用へとつながることから、公募によるモデル事業を展開

今後の方向性

- 多くの方が利用し、または目に触れる施設の木質化により間伐材等の利活用を推進します。
- 里山資源をバイオマスエネルギー等として活用するための仕組みづくりを推進します。

<平成30年度の取組>

- ◆観光地における県産材公共サインの作成や「子どもの居場所」の木造・木質化など、県産材利用の取組を実施
〔子どもの居場所木質化等5か所、木のおもちゃ等の設置30か所〕
【林務部】(新)地消地産による木の香る暮らしづくり事業 4,134万円
- ◆身近な里山資源である「薪」を継続的に利用する仕組みを構築
〔薪流通の仕組み構築モデル2地域〕(新)【林務部】薪によるエネルギーの地消地産推進事業 375万円
- ◆松くい虫被害木を木質バイオマス発電の燃料(チップ)に資源化して利活用する仕組みを構築
〔資源化の取組10市町村〕(新)【林務部】松くい虫被害木利活用事業 1,800万円

◆森林づくりに関わる人材の育成

<これまでの取組>

- 地域の森林・林業を総合的な視野で指揮できる人材(信州フォレストコンダクター)を育成
- 里山の資源を活用する地域リーダーを育成

今後の方向性

- 森林の整備や多面的利活用を推進する人材を育成します。
- 森林を様々な分野と結び付け、地域の多様な産業や交流を創出できる人材の育成を図るとともに、豊かな自然を活かした自然教育、野外教育を推進します。

<平成30年度の取組>

- ◆里山を管理・利用する地域活動のコーディネーターや技術指導等を行うリーダー、地域の里山を維持管理する人材を育成
〔育成する地域リーダー30人、里山維持管理人材900人〕
【林務部】(新)里山整備利用地域リーダー育成事業 275万1千円
- ◆森林セラピーガイドの育成等を通じたセラピー基地等の魅力向上の取組を推進
〔セラピーガイド人材育成40人〕【林務部】(新)森林セラピー推進支援事業 175万6千円

◆多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用

<これまでの取組>

- 対応していない(森林税アンケート等で多様な県民ニーズを把握)

今後の方向性

- 多様な県民ニーズに応えるための教育、観光等の分野における森林の利活用を推進します。

<平成30年度の取組>

- ◆学校林や「信州やまほいく認定園」のフィールド整備等を行い、森林を活用した教育や子育てを支援
〔整備する学校林16校〕【林務部】(新)学校林等利活用促進事業 1,255万円
〔フィールド整備等の認定園8園〕【県民文化部】(新)信州やまほいく認定団体保育環境等向上事業532万5千円
- ◆市街地における木々に親しめる緑地の整備や、地域住民の緑育の拠点となるまちなか緑地のモデルを構築
〔市街地の緑化整備4か所〕【建設部】(新)まちなかの緑地整備事業 400万円
- ◆観光地の魅力向上のため、地域の景観に合致した街路樹の整備や森林の景観整備を実施
〔街路樹の整備6か所〕【建設部】(新)観光地の景観整備(県単道路橋梁維持修繕費) 1,600万円
〔地域の景観に合致した間伐等10か所〕【林務部】(新)観光地等魅力向上森林景観整備事業 760万5千円
- ◆施設整備等を通じたセラピー基地等の魅力向上の取組を推進
〔セラピー基地整備4か所〕【林務部】(新)森林セラピー推進支援事業 1,576万5千円

- ◆その他 市町村が地域固有の課題に対応するための支援金 9,000万円
森林税の普及啓発及び評価・検証等 1,203万8千円

主要事業一覧目次

しあわせ信州創造プラン2.0の6つの政策推進の基本方針に基づき構築した
主要事業を体系別に整理して表記しました。

◎しあわせ信州創造プラン2.0 <6つの「政策推進の基本方針」に基づく主要事業>

- | | | |
|--|-------|----|
| <u>1 学びの県づくり</u> | | 38 |
| ○生きる力と創造性を育む教育の推進 | | |
| ○地域とともに取り組む楽しい学校づくり | | |
| ○高等教育の振興による知の拠点づくり | | |
| ○生涯を通じて学べる環境の整備 | | |
| <u>2 産業の生産性が高い県づくり</u> | | 41 |
| ○革新力に富んだ産業の創出・育成 | | |
| ○地域内経済循環の促進 | | |
| ○海外との未来志向の連携 | | |
| ○収益性と創造性の高い農林業の推進 | | |
| ○地域に根差した産業の振興 | | |
| ○ <small>きょうがく きょうしゅう</small> 郷学郷就の産業人材育成・確保 | | |
| <u>3 人をひきつける快適な県づくり</u> | | 48 |
| ○信州と関わりを持つ「つながり人口」の拡大 | | |
| ○世界を魅了するしあわせ観光地域づくり | | |
| ○心豊かな暮らしを実現する文化芸術の振興 | | |
| ○2027年国民体育大会・全国障害者スポーツ大会
に向けたスポーツ振興 | | |
| ○市街地の活性化と快適な生活空間の創造 | | |
| ○中山間地域での暮らしの価値の再発見 | | |
| ○先端技術の積極的な活用・導入 | | |
| ○生活を支える地域交通の確保 | | |
| ○本州中央部広域交流圏の形成 | | |
| <u>4 いのちを守り育む県づくり</u> | | 52 |
| ○県土の強靱化 | | |
| ○ライフステージに応じた健康づくりの支援 | | |
| ○医療・介護提供体制の充実 | | |
| ○生命・生活リスクの軽減 | | |
| ○地球環境への貢献 | | |
| <u>5 誰にでも居場所と出番がある県づくり</u> | | 58 |
| ○多様性を尊重する共生社会づくり | | |
| ○女性が輝く社会づくり | | |
| ○人生二毛作社会の実現 | | |
| ○若者のライフデザインの希望実現 | | |
| ○子ども・若者が夢を持てる社会づくり | | |
| <u>6 自治の力みなぎる県づくり</u> | | 61 |
| ○個性豊かな地域づくりの推進 | | |
| ○信州のブランド力向上と発信 | | |
| ○地域振興局を核とした地域課題の解決 | | |